

# 技術フォーラム ニュース

シンポジウム：[テーマ] みんなが創るまちなかの価値

～誰もが楽しみ安心できる場所 誰もがつながり育てるまち～

日時：平成 26 年 11 月 29 日（土）10:00～11:45

場所：港区新橋生涯学習センター 303 号室

講師：葦沢 由明 氏

長岡市 中心市街地整備室

まちなか整備担当課長

司会：岡 孝 夫 技術士

主宰者挨拶

技術フォーラム理事長 原田 敬美

工博・技術士

本日の講演テーマは、葦沢氏の「地方都市の中心市街地のまちづくり」です。お招きした葦沢氏は長岡市から遠路お越しいただきました。今日のお話しは、地方都市の研究についてです。地方都市における中心市街地の活性化は、どこの地方都市においても課題となっております。長岡市は市役所と中心市街地を融合させた独特の街づくりを進められており、日本における先進的事例です。JR 長岡駅前に 5,000 人が収容できるアリーナ、解放感のあるナカドマ、そして市役所が一体となった全国初の複合施設シティホールプラザ「アオーレ長岡」を中心に市民協働の街づくり「長岡モデル」を全国に発信するユニークな取り組みをされています。

全国初の「まちなか型市役所」が、どのように造られたのか、勉強させていただきます。



原田理事長

司会者（岡氏）

講師の葦沢氏のご略歴を紹介します。

1985. 3 東京都立大学工学部土木工学科卒業

1985. 4 長岡市都市整備部公園緑地課勤務

1991. 4 新潟県都市局都市計画課勤務（出向）

1993. 4 長岡市都市整備部新都市拠点整備課勤務

1998. 4 長岡市土木部道路建設課勤務

2003. 4 長岡市都市整備部まちなか活性課勤務

2008. 4 長岡市シティホール整備室勤務

2012. 4 長岡市都市整備部都市計画課勤務

2013. 4 長岡市中心市街地整備室勤務

それではご講演をよろしく申し上げます。

講演要旨：

ご紹介いただきました葦沢でございます。

長岡市は新幹線で東京から 1 時間半の距離にある城下町であり、人口が約 27 万 9 千人の新潟県中越地域の中心都市です。

平成 16 年 10 月に発生した中越大地震では、未曾有の被害を経験しましたが、「米百俵の精神」で復興して参りました。

今日は、長岡市の市役所機能をまちなかに移転し、都市機能の更新と再集積を進める街の活性化への取り組みについてお話をしたいと思います。



講師：葦沢由明氏

## 1 中心市街地の状況

長岡市では、平成 12 年以降人口減少傾向が進む中で、更なる人口減少や少子高齢化の進展を見据えた都市づくりを進めています。

平成 22 年度に策定された長岡市都市計画マスタープランでは、将来都市像を「コンパクトに 絆でつなぐ まちとまち 長岡」をテーマに、都市の活力を生み出し、地域生活を支える「都心地区」と「地域の中心部」を形成し、相互を公共交通網で結ぶ都市像が描かれています。江戸時代の城の位置と現在の JR 長岡駅や中心市街地が一致し、昔から中心部が変わっていないことが大きな特徴であり、これが街づくりの計画を進めやすかった一つの理由です。かつては、駅前の大手通り沿い

には4つの大型店舗が営業しており、平成9年に大手通地下駐車場、アーケード、シンボルロードの三点セットを整備し商業の活性化を目指しましたが、中心市街地は空洞化が進み、商店街はシャッター通りへと変身し、大型店舗も閉店し、昼間歩行者の減少が目立つようになっていました。

## 2 これまでの活性化に向けた取り組み

- ・H13.10 ながおか市民センターオープン
- ・H16. 3 長岡市中心市街地の構造改革に関する提言
- ・H18. 3 長岡市中心市街地地区都市整備計画の策定
- ・H20.11 長岡市中心市街地活性化基本計画（第1期計画）の策定
- ・H22.6 大手通中央西地区市街地再開発事業竣工
- ・H23.6 大手通中央東地区市街地再開発事業竣工
- ・H24.4 アオーレ長岡のオープン

長岡市では、商業に過度に頼らない街づくりを進めてきたことに特徴があります。商業も大事ですが、「まちなか型公共サービス」の展開を目指し、郊外に分散した公共機能を、街中に戻すことを基本に計画を進めてきました。

現在、厚生会館地区（アオーレ長岡）及び大手通中央地区市街地再開発事業の完成に伴い、機能の更新と再集積が進み、多くの人が「まちなか」を訪れることで、市民の意識が変わってきており、疲弊していた中心市街地がまさに息を吹き返した趣を呈しています。

## 3 全国初まちなか型市役所の実現

一般的に市役所は、大型ビルを造り集約型にする例が多いが、長岡市では街中に分散させ、街中の機能と融合させる形態をとりました。縦に伸びる高層ビルを、大手通りを中心に横にしたと考えればわかりやすいと思います。市役所機能を分散させると、不便になるとの意見が多く聴かれますが、市民は概ね単一の目的で来ることが多いため、大きな問題となっていません。市職員が街中を移動することで市民とふれ合い、親密化するというメリットもあります。

## 4 アオーレ長岡の整備の考え方

長岡市は平成13年10月に市民センターを店舗跡に賃借りし、その中で市民サービスの様々な取り組みを行い、これがアオーレ長岡のソフトを形成するための実証実験になりました。

アオーレ長岡は、JR長岡駅前に位置し、ナカドマ（屋根付き広場）を中心に、アリーナ、ホールなどの公会堂機能と市役所が一体となった、多くの人が集まる「市民協働・交流の拠点」となっています。オープン後1年間で延べ152万人の人が集まり、平成26年度3月末までに延べ274万人もの人々が訪れています。

アオーレ長岡は、機能的にも空間的にも従来の建物と逆の発想をしており、開かれた新しい公共

建築のモデル、市役所のあるべき姿の一つの方向性を示しています。市役所庁舎部分の面積は全体の1/3、総合窓口の利用者はアオーレ全体の1/5程度のため、市役所という感覚は希薄で、多くの市民が集まる施設の中に総合窓口があるイメージです。

また、20世紀型の巨艦主義とは正反対に、ほどほどの規模で、街に溶け込んだ建物になっており、機能的にも自己完結するのではなく周辺駐車場や飲食店等民間資産を有効活用する考え方をしています。

施設の中心は、ナカドマの空間であり、建物は脇役のイメージです。外でも内でもない中間的な領域の2,250平方メートルの屋根付き空間はアリーナの大開口を開けば5,000平方メートル以上の大空間が出現します。

## 5 アオーレ長岡の市役所機能

アオーレ長岡の最も市役所らしい場所は、東棟1階の総合窓口です。身近な手続きを集約した目的型の窓口を配置し、ワンストップサービスの提供とコンシェルジュによるサポートを行っています。平日は午前8時30分から午後8時まで、土日祝日は午前9時から午後5時まで開いています。

また、より身近な議会を目指し、ナカドマに面した西棟1階に一部ガラス張りの市議会議場を配置したところに特徴があります。その結果、旧庁舎の議場に比べ傍聴者が倍増し、緊張感のある議会運営が見られる様になってきました。

## 6 アオーレ長岡は市民協働の拠点

東棟3階に配置した「市民協働センター」の主な役割は、①市民活動、ボランティア活動、コミュニティ活動等の自発的活動に関する相談、②様々な団体同士をつなげる活動の支援、③様々な団体の活動に必要なニーズを聞き取り支援すること、④NPO法人やボランティア団体の立ち上げ・運営等に関する相談等であり、下支えとして市民協働推進室市民協働班が担っています。

## 7 現在の中心市街地の姿

現在の長岡市中心市街地は、JR長岡駅大手口駅前広場整備事業、シティホールプラザ「アオーレ長岡」、市街地再開発事業により整備されたまちなかキャンパス長岡、長岡震災アーカイブセンター、子育ての駅ちびっこ広場のほか、長岡震災資料館、ながおか市民センター、カーネーションプラザ、及びまちなか住宅の供給などにより、多くの市民が訪れ賑わいが戻ってきています。

今後、健康・医療など不足している機能を導入することで、波及効果を合併地域に広げていき、公共サービスに加え民間活力の展開につなげていくことが必要です。そうすることで中心市街地が市民の誇りの場になっていくものと確信しています。

## 技術フォーラム 活動報告

### 1) 監査、研修講師派遣等実績

業務実績のある自治体等							
昭島市、 板橋区、 鹿沼市、 狛江市、 杉並区、 所沢市、 野田市、 藤沢市、 八千代市、 秦野市	あきる野市、 磐田市、 川越市、 寒河江市、 逗子市、 栃木市、 函館市、 前橋市、 山形市	旭川市、 牛久市、 清瀬市、 三条市、 裾野市、 富里市、 秦野市、 町田市、 和光市	足利市、 江戸川区、 桐生市、 相模原市、 墨田区、 長岡市、 八戸市、 三鷹市、 大和市	厚木市、 大田区、 国立市、 寒川町、 草加市、 新座市、 八王子市、 水戸市、 二十三区清掃一部事務組合	足立区、 太田市、 小金井市、 上越市、 袖ヶ浦市、 西東京市、 東根市、 武蔵野市、	荒川区、 青梅市、 国分寺市、 常総市、 館林市、 日光市、 東村山市、 目黒区、	伊勢崎市、 鎌倉市、 小平市、 渋谷区、 調布市、 練馬区、 日野市、 守谷市、
技術監査・工事技術調査等の実績分野							
建築工事(設計、建築、電気、機械、空調)							
土木工事(道路、橋梁、河川、立体道路、駐車場、公園、競技場)							
上下水道(上水道、下水道、管渠、調整池)							
環境(清掃工場)							
情報(清掃組合の情報システム)							
業務監査(工事契約手続き、不正発注実態調査)							
情報(システム監査研修講師派遣)							
監査委員研修(東京26市、茨城県内自治体、静岡県内自治体、新潟県内自治体)							
技術職員研修(町田市、東京26市)							

### 2) 当会会員による関連雑誌記事、新聞記事、書籍等

1	「事業の無駄を斬る！技術専門家の目・総論編、建設編、環境編、情報編」 原田敬美、根本泉、高堂彰二、田吹隆明 月刊「地方自治職員研修」2006年1月号～4月号まで連載、公職研
2	「談合の根絶 外部監査で公正性確保」原田敬美 読売新聞「論点」2006年3月2日
3	「私の官民協働のまちづくりー東京港区長奮闘記」原田敬美 学芸出版社 2006.9.10 発行 ISBN4-7615-1217-2
4	「技術には専門の監査が必要だ！」NPO 地域と行政に支える技術フォーラム [編著] R&B ブックス 日刊工業新聞社 2009.7.15 発行
5	『重要性高まる技術内容の「監査」技術士の視点での設計・積算・施工の問題点をチェック』 日経コンストラクション 2009.11.27 号 66 ページから
6	「新潟県都市監査委員会定期総会での講演(タイトル:技術の専門区長から見た監査活動への期待)」原田敬美 上越タイムス 2013年5月22日
7	「経営に役立つシステム監査ー事業リスク分析評価～改善提言」小佐野市男 日刊工業新聞「課題に挑む技術士のソリューション」2013年6月11日

### 3) 当会主催のシンポジウム抜粋

1～25	当会ホームページをご覧ください。( <a href="http://www.efsc.jp/">http://www.efsc.jp/</a> )
26	「合意形成のプロセスデザイン」 2013年11月30日(土) 港区立新橋生涯学習センター
27	「ゴッホの部屋の日々」 2014年2月23日(土) 港区立新橋生涯学習センター
28	「最近における港湾及び海運の話題」 2014年5月31日(土) 港区立新橋生涯学習センター
29	「野外における危険な生物(生体と対応)」 2014年8月30日(土) 港区立新橋生涯学習センター
30	「みんなが創るまちなかの価値～誰もが楽しみ安心できる場所 誰もがつながり育てるまち～」 2014年11月29日(土) 港区立新橋生涯学習センター

## 技術フォーラム 活動予定

### 1) 監査、研修講師派遣等予定(H27年1月～3月)

	対象機関	分野	年月
1	某市	工事技術調査(建築)	平成27年1月
2	某市	工事技術調査(下水)	平成27年1月
3	某市	工事技術調査(水路)	平成27年1月
4	某市	工事技術調査(上水)	平成27年1月
5	某市	工事技術調査(下水)	平成27年2月
6	某市	工事技術調査(建築)	平成27年2月
7	某市	工事技術調査(建築)	平成27年2月

### 2) シンポジウム予定

今回のシンポジウムを以下にて開催します。

**テーマ:「東京の地下鉄事情」**

**講師:久保田 経三 氏 (元東京都局長)**

**日時:平成27年2月28日(土)10:00～12:00**

**場所:港区立新橋生涯学習センター  
(新橋駅徒歩1分)**

当シンポジウムへの参加ご希望の方は、氏名、所属を明記の上事務局へ

FAX:03-3404-0734

メール:[info.efasca@efasca.jp](mailto:info.efasca@efasca.jp)までご連絡ください。

### 3) 1日監査に関するパンフレット

情報と環境に関する1日監査のパンフレットがあります。御希望される機関はお申し付けください。

### 4) その他定例会活動予定

月例会

日時:毎月第2土曜日 10:00～

場所:港区立生涯学習センター

会員であれば、どなたでも自由に参加できます。

### 5) 会員種別

当会の会員は以下により構成されています。

☆ 正会員 (年会費¥5,000)

☆ 研究会員 (年会費¥3,000)

### 6) 当会ホームページのご案内

技術フォーラムの活動は、ホームページで詳しくご覧になれます。[\(http://www.efasca.jp/\)](http://www.efasca.jp/)

このニュースレター1号～27号についても、ご覧いただけます。

また、メールアドレスは下記のとおりです。

メールアドレス:[info.efasca@efasca.jp](mailto:info.efasca@efasca.jp)

### 編集後記

当 NPO 法人では、3カ月に1回実施しているシンポジウムの内容を広く皆様に知ってもらうことを大きな目的に、年4回「ニュースレター」を発行しています。今月号は平成26年11月に実施したシンポジウム「みんなが創るまちなか価値～誰もが楽しみ安心できる場所 誰もがつながり育てるまち～」と題し長岡市 中心市街地整備室 まちなか整備担当課長 葦沢 由明 氏にご講演いただきました。

今後とも、皆様方の声をもとに講演内容を考えて行きたいと思えます。講演内容につき、ご要望がある場合は、ぜひ下記ニュースレター事務局までお寄せください。その他のニュースレターに関してのご意見、ご要望も下記ニュースレター事務局までご連絡ください。

ニュースレター事務局: [oka@cea.jp](mailto:oka@cea.jp)

特定非営利活動法人 地域と行政を支える技術フォーラム

TEL 03-3403-2325

〒106-0032 東京都港区六本木 3-14-9 妹尾ビル4階

理事長 原田 敬美